

虹技の経営戦略

山本 幹雄社長に聞く

商3億円程度と小さいが、半導体製造装置をメインに建機などの堅実な顧客があり、財務体質もしっかりしている」



成している。熱処理などで、待機時間・保温時間ラ色ではなく見通せない。どの燃料の一部をカーボが短縮され、働き方改革、部分も多い。部別では、ニューラルのLNG人手不足解消にもつながら、インゴットケースなど、文字通り大物の受に替えたり、照明をLEDを生産しているキュボ注残があり前半はこなせD化した。これからは国の目標とする30年までに13年比46%減に取り組もうと新たにプロジェクトを立ち上げた」

「新たな目標に向けた具体的な取り組みは、」

「まず小型鋳物工場の電気炉2基を効率のいい高周波炉に替える。25年5月連休明けの稼働予定だ。高周波炉に変えると短時間で原料の鉄スクラップなどを溶解できるの

アルミ合金鋳造品の新規分野開拓

高周波炉導入でCO2削減

鋳物大手で環境事業も手掛ける虹技（本社・兵庫県姫路市、社長・山本幹雄氏）は、需要の新規分野を開拓するためアルミニウム合金鋳造品メーカーの小口合金鋳造所（埼玉県川口市）を1月に子会社化した。また昨年12月にはCO₂削減プロジェクトをスタートさせ、環境負荷低減にさらに積極的に取り組んでいる。今期や来期の見通しなども含め山本社長に聞いた。（橋川 渉）

「小口合金鋳造所を口合金鋳造所の話をM&A子会社化した経緯は。A専門会社から聞いた」

「当社は鋳鉄の鋳造品をメインに製造・販売しているが、それだけでは企業として先行きに閉塞感がある。5〜6年前から新たな協業、連携先を模索していた。その中で、後継者問題で事業の承継先を探していた小

「今後の展開は。」

「半導体製造装置向けは足元すでに増加傾向で、シナジーを生かせば、さらに売上げを拡大できる余地はあると思う。医療関係やロボット関係な

「CO₂削減プロジェクトについては。」

「まず小型鋳物工場の電気炉2基を効率のいい高周波炉に替える。25年5月連休明けの稼働予定だ。高周波炉に変えると短時間で原料の鉄スクラップなどを溶解できるの

「この数年業績が良かったが、送風機は堅調。ごみ焼却施設は、東京都・八丈島の工事が今年3月末に終わるので、次次の案件の受注に注力していきたい。機能材料のメタルファイバーは自動車などのブレーキパッドが主な用途だが、展示会などに積極的に出展していき

「具体的な数字はまだまとまっていないが、バ

